

1	チーム名 (研究対象領域・教科) 中学部 自立活動
2	メンバー   中学部教員 8名
3	チームのテーマ 生徒が自分からいきいきと活動できる教材づくり
4	対象生徒に願う主体的な姿 学習課題に対して自分からすすんで取り組んだり、興味をもって取り組もうとする生徒

5 研究実践の内容

【実践1】

単元・題材名	自立活動「さわってみよう」
本題材の生徒の実態	・手元を見ることは難しいが、手に触れて自分が好む感触であると、手や指先を動かして感触を味わっている様子が見られる。
本題材の生徒のねらい	・言葉掛けや実物の提示により、自分から手を出して教材等に触れて、感触を楽しむことができる。

(1) 対象生徒の学習の様子について

	学習内容 (さわった教材)	生徒の様子
4・5月	小麦粉絵の具 障子紙をいれた袋 メラミンスポンジ	中学部に入学し環境の変化からか落ち着かず、活動に取り組もうとすると怒り出すことが多かった。姿勢も安定せず、じっくり触るといった様子ではない。
6・7月	土 泡 寒天	プランターにさつまいもの苗を植える活動では土に集中して触る。泡は、泡が消えて水になったものを好んで触る。水遊びやプールも好きで水は好む。寒天はこれまでの触る活動の中では一番反応が良く、固まりを崩して楽しんでた。

(2) 改善策

- ・ある程度かたまりで触ったという実感がある感触のものが良い
- 触る物の量を多めに提示
- ・椅子座位で取り組んだが姿勢が安定せず集中しづらい
- 座位保持椅子で取り組む (ねらいを絞る)



(3) 検証授業の結果の考察

改善点	生徒の様子
○小麦粉絵の具を固めにし、タッパーごと提示。(固まりを直接触る)	タッパーの中で手をたくさん動かして、一定時間感触を楽しんでいた。画用紙の上で絵の具をのばす時も反応は良いが、タッパーの中にたっぷりの絵の具を用意して手を入れる形の方が、より手や指先の動きが良かった。
○座位保持椅子に座り、安定した姿勢で取り組めるようにした。	椅子座位は、姿勢が安定しないため(身体を支えるために)教師の支援が多くなってしまったが、座位保持椅子に座ると姿勢が安定し活動に集中することができた。教師の見守りだけで触ることに集中する場面も見られた。

**【実践2】**

単元・題材名	自立活動「よく見て、よく聞いてやってみよう」
本題材の生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手先が器用である。手元をよく見なかったり取り組みが雑になることはあるが、集中すると落ち着いて取り組むことができる。</li> <li>・自分の意思や要求を伝えることが難しい。相手に伝わらず自分の思い通りにならないと気持ちが不安定になり、パニックになる。</li> </ul>
本題材の生徒のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもち、落ち着いて集中して活動することができる。</li> <li>・自分の気持ちを言葉や身振りで伝えたり、友達とやりとりしたりすることができる。</li> </ul>

(1) 対象生徒の学習の様子について

	学習内容	生徒の様子
手指の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビーズ通し</li> <li>・アイロンビーズ</li> <li>・たんぐらむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手先が器用なこともあり、意欲的に取り組み集中して活動できる時間が長くなってきた。</li> <li>・好きな活動であるため笑顔で活動する様子が見られた。分からないときの伝え方を示すことで、模倣して伝えられることが多くなってきた。</li> </ul>
言葉や文字を通した教師とのやりとり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や教師の名前を覚えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とのやりとりをしながら活動に取り組んできた。分からないときに自分から伝えることもあったが、分からず不安定になり自傷することや、顔を隠して活動に取り組むことが難しいこともあった。日常生活に生かすことも難しかった。</li> </ul>

(2) 改善策

- ・自分から進んで取り組むことができるような支援→順番表や興味のある教材
  - ・生徒どうしでかかわる活動の方が良い
- ◎生徒どうしでかかわれるようなゲーム活動に取り組む。

(3) 検証授業の結果の考察

改善点	生徒の様子
○生徒ごとに順番表を提示し、生徒の興味のある教材を提示	活動の順番が分かり見通しが持てたことで、落ち着いて自分から教材を取って取り組む様子が見られた。好きな活動があることで意欲的に活動する様子も見られるようになってきた。
○生徒どうしでかかわることができるようなゲーム活動	以前よりも友達の言葉を聞くという意識が少しずつ高くなってきている。またゲーム活動にとっても意欲的で、友達よりも勝ちたいという思いからか、集中して取り組む様子も見られた。

6 成果と課題

**【実践1】**

生徒の好きな感触を想像し感触の固さを調整することと姿勢を安定させることで、感触を味わいながら穏やかに笑うなど、生徒が触って満足したという様子が見られた。教材も大切だが、安心した気持ちで取り組めるように生徒と関係を築くことや、環境を整えるといったことも重要だと感じた。また、本生徒はダイナミックに手を動かすことを好むため、触って手ごたえがあるように提示するものの量を多めにすることや、温度や固さ、大きさなどを、本生徒の好みに合わせる工夫も大変有効であった。

**【実践2】**

周りの様子が気になったり情緒が不安定になったりすることがあったが、ついでで区切ることで環境を整えたり、興味関心のある教材や得意な教材を提示したりすることで、学習意欲を高めることができた。学習を繰り返し行ったり順番表を生徒ごとに準備することで、活動方法や流れが分かり、落ち着いて自分から取り組みようとする様子が見られた。教師だけでなく、友達どうしでかかわる課題に取り組むことで、意欲的に活動したり普段の生活の中でもかかわろうとしたりする様子もみられてきた。

見通しをもって自分から取り組む様子が見られるようになってきたが、活動方法や内容が分かることで慣れてきた様子も見られている。ゲームのルールや明確な役割、ゲームを行う時の生徒の位置関係などをさらに工夫し、生徒同士のかかわりやコミュニケーションの力を育てることができるよう、今後は生徒の目標に向けて、日常生活に生かせるような少し難しい課題を設定するなど、生徒の実態を良く把握しながら教材の選定をしていきたい。